

## 和牛産肉能力直接検定について

図師隆一・長友邦男・横田 修・鈴木祥夫

(宮崎県総合農業試験場肉畜支場)

ZUSHI, R., NAGATOMO, K., YOKOTA, O. and SUZUKI, Y.  
Results of individual performance test for meat productivity  
under liberal feeding in Japanese Black Breed bulls

和牛の産肉能力を向上させるための一方法として増体能力の高い種雄牛を選択していくことが必要であるが、これは近年、各県の畜産試験場、種畜場において、和牛産肉能力直接検定として実施しており、当該においても、42年より直接検定を実施しているため終了した第1回から第3回の成績について報告する。

### I. 試験(検定)の方法

検定期間は予備飼育を30日間経過した後、本検定を154日間行なった、検定牛は県内各地から血統、体型のすぐれた黒毛和種(雄)生後6~7月令のものを各回とも5頭づつ選択した。飼料は濃飼として検定用1期を全期間飽食させ、その際稲わらを10%混合した。粗飼料も飽食させた。調査項目は体重を2週毎に1回、体型を4週毎に1回測定し、体型記載は開始時、前半終了時、終了時に記録した。

検定終了後に精液検査を行なった。以上含めて、すべて全国和牛登録協会の定める検定法にしたがい実施した。

### II. 成績ならびに考察

期間内の1日平均増体量は、第1回が1.38kgから1.14kg、第2回が1.36kgから0.95kg、第3回が1.06kgから0.90kg、平均で1.25kg、1.18kg、0.96kgと回をへるにつれ増体が劣る傾向が認められた。又、1kg増体に要した飼料、養分量と増体量を比較すると、濃厚飼料、粗飼料ともに増体のすぐれた牛ほど要した飼料量が少ない傾向にあり、DCP、TDNにお

いても同様な傾向が認められた。なお検定期間中の1日当養分摂取量においても、TDN、DCPともに第1回は第2回、第3回よりも多く摂取していることが認められた。以上、これらの検定の結果各県で実施されている検定の1日平均増体量が1.00~1.10kg程度が多いことから考えれば第1回、第2回の1日平均増体量が1.25kg、1.18kgということはすぐれた増体であると思われる。それに比して第3回は0.96kgでかなり前回の成績より劣っておるがこれらの原因としては、いろいろ考えられるが上坂らは夏期高温時の湿度の増加が、肥育中の増体を著しく阻害すると報告しておることから考えるならば、第3回の検定期間中の高温多湿(表2)が増体に悪影響をおよぼしたとも考えられる、これについては、今後さらに例数を重ねて検討する必要があるが、検定牛の増体能力をより正当に評価するためには夏期の高温多湿時の検定については、適正な補正を行なう必要が生じてくる場合もあるものと考えられる。又、精液検査については、全牛とも性状に異常は認められなかったが採取時に擬牝台への乗駕欲が弱く採取が困難であったが、このことは、飼料の飽食、または集団自由運動などの条件が影響しているかどうか検討する必要があるものと考えられる。

第2表 検定期間の平均気温、湿度

検 定	気 温	湿 度	検 定 時 期
1	16.4 ℃	64.6 %	8月下旬~11月下旬
2	12.3	64.4	1月上旬~6月上旬
3	22.7	74.6	6月下旬~11月下旬

第1表 検 定 成 績 要 約

検 定 回 数	頭 数	検 定 日 数	時 期	開 始 日 令	開 始 時 体 重	期 間 増 体 量	1日平均 増 体 量	1日当飼料摂取量		1日当養分摂取量		1kg増体に要した飼料量		1kg増体に要した養分量	
								濃 飼	粗 飼	DCP	TDN	濃 飼	粗 飼	DCP	TDN
1	5	154	8~11月	7~8ヶ月	235.6	192.4	1.25	6.30	3.40	0.91	6.32	5.08	2.73	0.72	5.09
2	5	154	1~6月	〃	238.4	182.4	1.18	5.99	2.91	0.82	5.81	5.15	2.52	0.69	5.02
3	5	154	6~11月	〃	262.0	148.3	0.96	5.27	3.73	0.82	5.73	5.49	3.65	0.83	5.95